

10/21/2014

写真 = field note

撮影すること
記録すること
撮影と同時に、何を
撮った自分のことを考える。
その風景のことを考える。

Wind farm = 風力発電

field の 木々を切り、
電線を引く
その地域の空気を交わす
こともできる。

知ることで
work / lecture

ここにある
field

飛行機、電線!





1

どうなってくんだろう、と身を任せていく感じ。

なんのためにやるんだろう、って。不安はあるんだけど、わからないっていう状態を楽しむ。全部説明されたりすることが多い気がして。説明もきちんとしてみようみたいな。

そういう場にいる方が普通じゃない？でもそうじゃない場にいることにワクワクした。不安を共有しながら、楽しむみたいな。

これを体験していくと、自分はどう感じるのか、想像できないよね。でもそれが、「体験」だと思う。自分で実際に触ってみたりしないと、わからないから。参加していったら、どうなるのかな、と感じた。



2

東京で、飯館村の風景を見ながら思ったこと。私は畑が好きだから、ここの畑は誰かがお手入れしている畑だな、とか、ここは誰も手を入れてないな、とか。私が思っていたよりは、ずっと手が入っていた。私たちがそう感じるということは、現地の人たちは、「手が入ってる」と見られなくちゃいけないっていう、プレッシャーを感じて暮らしていたりするのかな、と想像しました。埼玉の方では、一斉に草刈りしているのを見たことがある。たぶん雑草の生え放題が敵視される文化もあったりする。そこに住んでいる人たちの人手以上に、「刈らなきゃいけない」みたいなものがあるのかな、ないのかな、とか思いながら見ていました。

菅野さんの話を聴いて、今時テレビだと方言に全部字幕が入るけど、字幕ない！って思った。普段文字情報に結構助けられてるんだな。その方言を聞き取れているかのように錯覚してたな、と。あとは、私の実家の祖母が、地元の人と喋ってた会話を思い出して、あの時もこういう感じで、わからず聞いてたなって。

私のおばあちゃんは兼業農家で。里山みたいなところにお家があって。楽しかったの、遊びに行くのが。あと父方の方は、庭でお花を育てていて。今の私の畑好きとお花好きはその経験から来ていると思う。私の原体験。



3

菅野さんの、「土と太陽さえあれば生きれる」というお話を聞いて、沁みるなど。

あるおばあちゃまがずっと守られてきた畑がなくなっちゃったんだけど、おばあちゃまが高齢だし草取りとかお世話するの大変だからって、閉じたそうです。でもそこに畑があることで、おばあちゃまは草刈りして、そこに立ち寄るおばさまたちとキウイフルーツの棚の下でおしゃべりして、なんというか、その畑は、おばあちゃまにとっては生きがいのような場所だったのかもな、とも思ったり。



4

道路にみなさん立ってらっしゃって、ヒソヒソ声で喋ってて。映像が、一定のリズムについて、消えて、ついて、消えて。ずーっとついてないからこそ面白いよね。暗くなるから、その時に何か動くと、次ついた時には状況が変わっている。どんどん出来上がって行って。暗いながらに道路に浮き上がってくる感じが。でも、ありそうな住宅街の風景なんだけど、ああゆうふうな住宅街が続く道路はないなって。不自然だなって。

岩井さんが、私たちに、「これっぼい道路を探してください」って住宅街の写真を送ってくれたじゃないですか。だから、運転中に、これっぼい道路をずっと探してて、「どうしたらぼいって感じるのかな、私は」って考えながら、曲がり角を曲がるんですよ。すごい新しい建物があったりすると「ぼい」と思わないのね。で、「あー、っぼい」とおもうのは、自分の年齢ぐらいの建物。でもね、ぼいなと思った道を、一回曲がって二回曲がると、絶対ぼくない道に行くのね。曲がっても曲がってもあの道路という道はすごい少ないのかな、って思ったの。府中界限だとね。



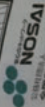
このワザハシは、岡山県内産食材で作られた
安全安心で使えば使うほど味が再生される、岡伐材のワザハシです
※産地直産、品質の高品質を掲げ、岡伐材の味を生かすために、加工による品質低下を防止しています

#5

体験したことがない場所、行ったことのない場所で、みなさんが防護服を着ている状況が、海外の映画のようだった。同じ時間で繋がっているのに。異空間、だけど距離はさほど感じなかった。ここ数年 Zoom を使ってるから、距離を超えて時間を共有することには慣れてしまっているな、って。

こちらではお味噌汁を用意して。みんなで好きな具材を持ち寄って入れました。家に梅の花が描かれたお椀、会津塗りの漆器があったので、ちょうどいいなと思って持ってきました。ライブ映像の中にも熊町小学校の梅の花が写って、あ、と思った。でも、枝が切られてないな、とも思って。梅の枝は本当は切ったほうがいいんですよ。「桜切る馬鹿梅切らぬ馬鹿」と言うことわざがあるくらい。

農業共済新聞



〒100-8411
東京都千代田区千代田1-1-1
TEL 03-5561-1111
FAX 03-5561-4222
E-MAIL nosai@nosai.or.jp
http://www.nosai.or.jp

ズバリ直言

田尾陽一

大田由人はあれ程まで
いるが、それらの畦は緑
の草のベルトになっ
てきた。畦は除さ
れなかった。環
境に馴染みがない
の分、いたが同業者
はなかった。それ程
大田由人はあれ程まで
——畦は緑で、草が
田に生え、草が
田に生え、草が

——畦が農地で除か
れ、赤い土の畦は
も除かすべからず、草
(田舎草など)
この国は不思議な国

畦は農地か

だ。畦の草が
生え、草が
生え、草が
生え、草が
生え、草が
生え、草が

農業者などは、路
線整備の遅延と
は情ないところだ
れる「森林環境・主
環境・生活環境を
る気は、環境
増える。
界の急激な変化
制あり・
去らば
生息の
環境を多
必須はあ
農業者の
手長な
合資・
大・田
は、田
00年

1.

「風と土の家」に、「ふくしま再生の会」理事長
田尾陽一が書いた新聞記事が置かれていた。



40



東武東上線



2.

みなさんと一緒に双葉駅の近くを歩いて
「原子力明るい未来のエネルギー」の
看板があった場所を探していた。



おのれ
いそがし



旧「柏原旅館」が
まかない付きのシェア
ハウスに形を変え、
運営開始して早くも
4ヶ月が経ちました。
橋本町で暮らし始めた住
人たちの日常を、様々な
角度からお届けします！

今日のひとコマ！

kashiwayaの
住人を中心に幅
広く部員が増えつ
つある「kashiwaya
菜園部」のひとコマ。
畑作業が楽しすぎて、普段
とは人格が変わってしまう人
もしばしば。こんな笑顔を初めて
見せてくれたのは部員の「なかじー」。



まかない日記

お盆明けに集まってくる
各地のおいしいもの

共同生活の楽しいところの一
つかもしれません。お盆休みに
出かけた日久しぶりに地元
帰った住人たちから、お土産で
各地のおいしい食べ物をいただ
いちゃいました。徳島のすだち
や、岡山のきび団子、千葉の梨、
山形のフルーツジュース、会津
の赤かぼちゃ、中通りの桃、ぶ
どう等々！ありがたや！



会津三島町の赤かぼ
ちゃ。均等に肉厚で柔
らかい！



赤かぼちゃと牛肉の煮物

「地元ではどんなふう料理し
て食べるの？」などと会話しな
がら、その人の育った風土を想
像して、豊富な食材に舌鼓を打
つお盆明けを過ごしました。



8/18 焼き秋刀魚&徳島のすだち



8/24 茄子とししとうの肉味噌炒め



8/30 豚つくね&みょうがごはん



食堂は今後、地域に向けた夕飯食堂として平日営業させていただく予定です！
その他、休日にはイベントとしてカフェ営業の企画もご紹介します。お楽しみに！

3.

「シェアハウスと食堂 Kashiwaya」に伺い、
通信をいただいた。



maisonnette

4.

家で菅野さんからいただいた餅を焼いてみた。

MAR 11 2011 14:46

MAR 11 2021 14:46

MAR 11 2031 14:46

Re Start



イクセルエーティー

風子丸親をい未来の工ネムギ



入居者募集中

管理会社



双葉不動産

浪江駅前 ☎0240-35-2950



5. 看板の時間

初めて双葉町に行きました。駅の周りには、すでに新しい住宅が建てられ、住んでいる人もいるようでした。並びに、時間が止まったような商店街の店と、色々な壁に描かれた大きくて311について描いたアート作品が目映りました。311の「前」と「後」、という2つの時間が、異なる肌理で同じ空間に並存していると感じました。「原子力明るい未来のエネルギー」という標語の記された看板があったところを探そうと、旅の仲間が提案しました。今、その看板は、「東日本大震災・原子力災害伝承館」に所蔵されているようです。元の看板はなくなりましたが、隣に立つ不動産の看板にある「原子力明るい未来のエネルギー」の映った町の写真が目立っていました。元の看板は、違う場所にあります。そして、看板に映った写真は、元の場所に未だに残されています。



最後に、「触る前にその周りを大切にする」という藤城光さんからの言葉は、心に響きました。



いき場をなくした波

榎葉町山田浜の堤防より寄せる波だけを撮る。

情もなく置かれたテトラポットとコンクリートの津波。

白砂の浜は消え堤防を打つ波の鼓動だけが遙か昔と変わらない。

二〇二三年一月九日 瀧本広子

―街は生きている―と言うマンガかドラマが有った。それを何カ所か歩いた時ふと思いつく。今回の土地たちへ「生きてますか？」と問いかけたくなかった。

なぜなら（建設家さん主導のように）整然としてキレイで、（自然と一体感は見られない）人工的道路や公共物などの雰囲気がつくりこないから。自分の直感では何となく味気なくて、その現場での暮しやヒトの営みを感じられない。言い換えれば街のつくりとヒト自然とのバランスが大切なのだ。本来そこがしっくりするのがあわいともいえる。仮にバランス取れなければ、どちらか変わるまであわいを目指して努力しなければならぬ。

ちなみにその辺りでは、古くて懐かしい建築物はみな柵で覆われてた。家主が戻れないでいるところ、その我が家を壊し無くして更地にすれば費用補助が貰えると決められた。古いものを無くして新しくするのが良いか？古きを尊び、今後どうやって暮らしていくのか？それがどうでも有っても、変わるまであわいを歩いてみよう。

アントナン・アルトーから折口信夫の「ほかひびと。」とウィルスの話。
9月の100分で名著が「折口信夫で、「ほかひびと」のこを知る。

エデルの巻組

最初ひきこもり支援やりたい理由の1つが、「いい子(人)ペルソナを剥がす。

*投影された人格を演じなくてよい。が出発点で、プロジェクトスクールとか通引になって、外から当事者とかそういう言葉が出てきた。

アスマスは、チーム名決める時、たかすかさんが俳句やっていたから、17の〇を作って順番に埋めていったら、『アスマス目聞くオニ鬼はアメこよいサス』→アスマス美容室になって、分身ダンスも鬼というか、自分の中のモンスター的な。

あ、50分をすてて、
もえこるのほやかほ(17と)
たかすかのなかからたか
すかを見てる中平さんが
印象的だった。たかすか
言葉もしてた

2/3(金) NHKの京コトはじめて、鬼は「方相氏」やらなんやら、

2/5(日) たまれ、最後片付けの時に、本が置かれてるスペースで見つけた、中平卓馬の本☆。2017年多摩映画祭でニュードキュメンタリーで「きわめてよいふうけい」上映した時、図書館で借りてべらべら読んだ。

見ると見ると
見ると行か
写真をとってた人が
何を撮ってたのか

昨年夏、森山大道の映画「過去はいつも新しく 未来はいつも懐かしい」観たら、中平中平ばかり言っていたので、買った。

Polution
汚染と禁忌
メアリ、タカラス
土塚本利明=訳

今までで、最長文大変失礼します。
すごく強引に、結論っぽくまとめました。

2/5(日) 東京からライブビューイングに参加、声沢さんが用意してくださったお味噌汁、海苔巻き。「恵方巻き食べられなかったから嬉しかった」などとお話しながら、会場にあった本、「鬼の研究」と中平卓馬☆「なぜ植物園監なのか」。

1/8・9「福島行ったこと」は、1/29ZOOMで振り返るまで、あまり言語化できず、

「アイヌモシリ」は、... 曾我栄子さんの回の前に観たかったが... 1/17に観た。



1/28(土) TAMスタジオのゲストが、森隆一郎さんで、1/23の勉強会以外、何も情報入れずにトーク聴く。

2021年TAMスクールは、当事者性がテーマ、金森香さんがゲストで... アートマネジメントに関わってなくても、* 参加できた。* アスマスで元ひきこもり当事者として?!

TAMでの自分の立ち位置は、当事者としてだから、森さんへの質問も、震災の被災者とか、何らかの当事者に対してアートが出来ることは?

小松理彦さんがつづいた言葉

小松理彦さんの「共事者」ということばを教えてください。

その後、懇親会に参加せず、山村浩二さんの「幾多の北」を観に行っった。

もちろん、作品もだが、ゲストトークが、ピーターバラカンだったのも...

田中浪「名付けようのない踊り」のストーリーテラーが、山村浩二さんのアニメで良かった。「幾多の北」も、北は東北限定のことではないが、制作が2012年4月かららしい。今回の福島の旅...

自分が過去色々なWSに参加して言語化できなかったことや、散々、元当事者がなんたらかんたら言われて疲れたとか、カオスが。

C
12/24 宇都宮の帰りの電車、相馬千秋さんの話に、TAMスタジオでトーク聴いたから、少し会話に参加。

8月相馬さんのトークの前に、「裁かるるジャンヌ」観たら、ライナーノーツに「演劇とその分身」本の作者アントナン・アルトーが、映画にも出演していた。

前 プロジェクトを捨てたときは
当事者と名のった。
ジャンヌアルトーだから
カオスしようの方が
強いから



双葉の撮影終わりの時、「震災後いつ来たか?」とか、海見に行った時の、「震災時どこにいた?」は、写真撮るみたいなのに、話が聴けた気がして嬉しかったです。

いつも自分が写真撮れないと思ってるのが、解消されたというか...

すごいなと思ったのが、シェアハウスも福島だったなんて、自身のアーティストとしての活動とか、あわいでファシリテーターしてることに對して、森山さんが経緯や思いを話さずにやることが...
2023/01/29 11:38 前田

その時に聞きたか
写真とるかんかくで聞けた。
何もいきまなくてもあの場にいたら、
自然に言葉が出てきた

1番肝心な所間違った。ついでに...

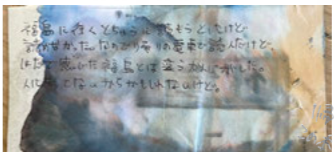
Jヴィレッジ駅で。

1/8・9 WS終わって、帰りの一人旅モードになった時に、須之内さんが戻ってきて、福島のこ聞いたのが...

「どれくらいぶりか?」

逆に、WS中は枠にとらわれた会話してたのかな?と感じた。

急に天気が良くなって、写真撮った。



テレビの取村とまったく違った。
伝え方とか、本人が直接発言してることは
こんなに違ってるね
(森山)

声沢さんと片桐さんが、映画上映のチラシの話していて... 何の作品か「アートなんか知らない!」8月の相馬さんのトークが、あまりピンとこなくて... 9月に観に行った。

月1本くらいしか、映画観に行っていないけど(笑)
4/11シャトーの上映会は、監督トークもあるんですね。

問題解決はデザインの仕事だから、いくらアートをマネジメントしてもできない。みたいな乱暴な結論になった(自出)

アートマネジメント
パフォーマンスとか
いい理屈からでたらいいけど
トシであそこ
出す

でも、ひとつだけ教いがあるのが... *「鬼とかほかひびとかな」と思っていて...

木戸の家にもあった、みのは「ほかひびと」の衣装なんですよ。

当事者当事者うるさい~その衣装着れるのは、当事者だけだぞって、アスマス美容室の分身ダンスのカッコロスは、そういう思いもあったし、それを被せられた人は、その人格を生きなきゃいけない。てコンセプトにしたのは、ほかひびとが、みの着て踊ってるのに近いかなと思いました。

「鬼の研究」の本も読んでみた。



「- 対 - しかない」
それ以外かなと思っら。

先程の投稿の訂正

X 鬼 → O オニ

アスマス目聞くオニはアメこよいサス

★双葉の撮影で1番感動的だったのは、明るくなり剥がす時に、スクリーンにした紙の粒子が見えたこと、四角い粒子の1つ1つにちゃんと映像が投影された。

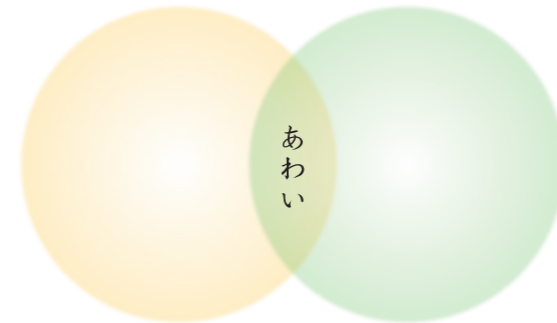
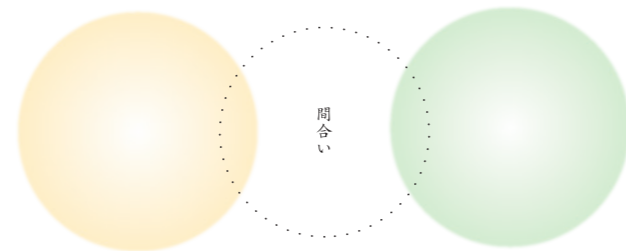
それ以前の3ヶ所は、夕方の光でも見えなかった。(後日追加メモ)

あ
わ
い

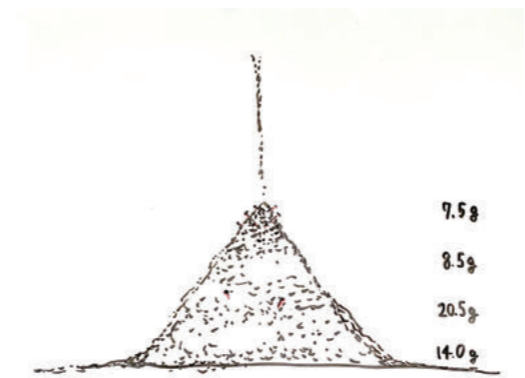
(わたしと場所／移ろい)

田
中
有
加
莉

今回用意いただいた福島訪問の機会に、わたしは参加
しませんでした。日程や費用が理由のひとつではあり
ましたが、なにより、自分と被災地との間合いを詰め
る覚悟ができなかったからです。



あ
わ
い
移
ろ
い





他己紹介は初めてだったのですが面白かった。自己紹介だといつも何を喋っていいのかわからなくなるけど、他己紹介のほうが素直になれる気がした。分身作りでは足を作った。客観的に見ると自分のイメージとは少し違う、少し大きく感じた。自分のスペースの捉え方。3人での作業も楽しかった。

あわいの捉え方もみんな違う。あわいという言葉は今回はじめて知った。まだ漠然としていますが、あわいの境界線を揺れ動いていくようなパフォーマンスがしたいと思っています。

秋のジャムづくり

写真を投影する場所について、「どこでもなさそうな風景」（区画整理など人為的な痕跡を感じる場所）という視点でいくと、アノニマスな分、何を感じるかは見た人それぞれに委ねる部分が大きい、開かれていると思うのですが、一方でそこに参加する私たちは、その行為をする文脈をもう少し探りたい気もします。あとただの思いつきですが、暗くなると道が見えなくなりますが、道という生活空間に対する個々の私的な記憶を喚起させつつあの写真が浮かび上がると、また受ける印象も違うので、日中の人通りのある時間帯からカメラを回しても面白いかなとも思いました。

Ishihata 2022年10月24日(月)

興味深いですね。

と同時に僕の説明の拙さも感じましたー。

以下、返答というよりも、つらつらと考えたことです…

強調したかったのは「どこでもなさそうな場所」というよりも「どこにでもありそうな場所」という点です。それは「僕が見上げた空はあなたたちが見上げた空と同じか?」という問いだし、「僕が掃除した街はあなたたちの街とは違うのか?」という問いへとつながります。抽象化された場所ではない。あそこで起きたことは、ここで起きない、と言えるのか。もしくはここで起きた場合の想像力、でしょうか。

文脈は、キンバリーさんもおっしゃってましたね。参加者の方が「その行為をする文脈」ですか。僕がそれを明示するのも違うな、と感ずるので、参加する人それぞれによって変わってくるのでしょうか、それぞれが紡いでいくものなのでしょうね。ただ僕が言えるのは複数人で路上での(再)体験を通して、記録を解きほぐしていくような、別の開かれ方を共有したい、と考えています。そしてその記録(映像)を見た人が、また違った視点で展開されていくのだろうな、という期待はあります。だから今回行う3回の実践は「ワークショップ」ではなく、通常?の制作のスタンスで進めていった方が良いのだろうな、と帰りの電車の中で考えていました。こちらが参加者=オーディエンスを想定するのは違うのではないかと、いうように。真っ直ぐ制作に向かっていくのだけど、あくまで開かれているような。のりしろはちゃんと付いているような。そんな形で進めていけたらいいな、と考えています。

昼間の道路の映像、そうですねー…

あ!ちょっとまた別のプランが浮かんだ!

それを試してみてもいいかもなー

Iwai Masaru 2022年10月25日(火)

「どこにでもありそうな場所」「抽象化された場所ではない」「ここで起きた場合の想像力」などなどの言葉で、こちらのイメージもまた更新された感じがします。

あわいについて、まだぼんやりとしか考えてないですが、

最初は“ここ”と“あそこ”の距離、間にあるもの、という二次元の焦点距離のイメージでしたが、段々と三次元の垂直に重なる層のような感覚も出てきました。

Ishihata 2022年10月27日(金)

このような機会がなければ行かなかっただろう土地に、時間帯に、そこに立つことで、単に写真を写すという再現ではない場所に立ち会えてよかったです。初期の頃に「どこにでもありそうな場所」「もしくはここで起きた場合の想像力」という言葉がありました。実際に体験してみて、「あるいは存在するかもしれない場所」だなど、思う瞬間がありました。このことと、放射能に直接的につなげすぎな感がありますが、除染土の再利用ということがどうも私の中ではつながります。

まだまだ終わりそうにない、終わるものではない、ということあらたに認識しました。…と書くときやけに放射能のことばかりになってしまいますが、“あわい”を考えるいい時間になりました。経験的道路のプロジェクション、ありがとうございました。

Ishihata 2023年1月15日(日)

=====
何かを記録すること、過ぎ去っていくものを留めようとするのは大変だと思う。でも目の前に映像が映し出されていたあの感覚は思い出そうとしたら思い出せる。ぼつんとそこに在る、紙にピンを立てた感じですかね。

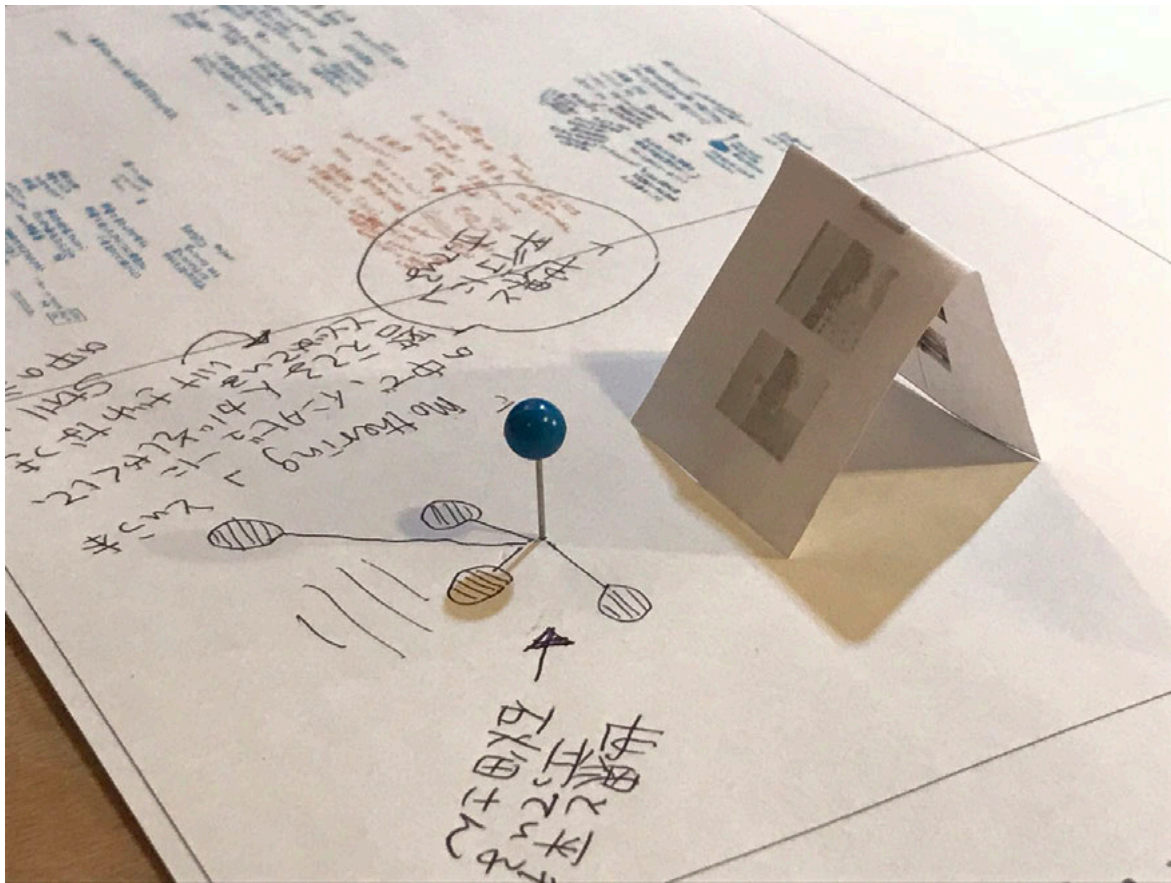
日々、中央線に揺られて移動して、1日の半分以上パソコンの前にいて。パソコンをやっている時は、身体がない感覚。世界に、一応存在する、という感覚が普段はない。だけど、双葉町で、スクリーンを眺めていた時は、自分が空間に存在している感じがしたというか。パソコンの前では、椅子に座ってるから、もたれるところがあって、空間に囲まれている感覚はあまりない。あの場では360度、囲まれていて、自分が空間に垂直に立っている気がした。

「マザリング」という本の中で「世界と平行に立ってられるか」という文章を読んだ。元は池澤夏樹の『スティル・ライフ』の一節から、読み手が解釈して作った言葉らしいですけどね。世界と平行に立とうとしている。物理的にも、プロジェクションに映る世界とは平行に、地面には垂直に。スクリーンと私と外側の世界。

1回目は夜であまり周りが見えなかったから、自分が「空間に立っている」という感覚はなかった。そういう感覚が芽生えたのは郡山と双葉から。特に双葉でかな。

双葉の時は、夜明けになってくるじゃないですか。夜明けになると周りの世界は存在し始めるけど、スクリーンは消えていく。その対比もあつたかなと思う。最後が朝日でよかったですね。

<あの時の感覚の話、紙にピンを立てる> Ishihata + Moriyama 2023年2月1日(水)



“この世界がきみのために存在すると思っではいけない。

世界はきみを入れる容器ではない。／

世界ときみは、二本の木が並んで立つように、どちらも寄りかかることなく、それぞれまっすぐに立っている”

“大事なものは、山脈や、人や、染色工場や、セミ時雨などからなる外の世界と、

きみの中にある広い世界との間に連絡をつけること、

一步の距離をおいて並び立つ二つの世界の呼応と調和をはかることだ。／

たとえば、星を見るとき”

『マザリング 現代の母なる場所』（中村佑子）の中で引用された、

『スティル・ライフ』（池澤夏樹）の一節

- 防災
学校内での災害時の受け渡しについて

- エネルギー問題

今日初めて
被爆者

にふたつ

- "考え" ことが 反けおちて

↳ 大熊海岸沿いはもう止めたい

なのに → 防ぼうてい 建築

県職員

「震災前に戻すため」

→ 一般道の再建

→ それで復興?

放射線
物質

- "考え" という 選択肢

- 「本当にこれいいの?」 → "考え"

- 新しくすればいいの? つかないか!

- フランクリンで直されたことに対して

「矛盾」を抱き、解決をどうするか。

木村さん 東電「エネルギーを守るとIF、JALの命を守ること」

↳ 今の状況で電気を ~~買~~ 買っていない

二つあって本当に必要? を 考えながら生きてゆく

電気を使わない 選択肢に気付く

○ 恐怖、怒り、喜びなどを感じてきた空間がある/ない

○ のどをすぎれば、熱く感じる

自分が話す。傷つた人から

引き出しの先生を 責めつけ はない ...
し前置きをする必要ある。

他者への配慮 ⇨ 言わなまじいって
↳ 当事者が率直に話すことが大切
(気を使う第三者がしゃまをするって...)

怖い。

・ ストートには言わない。

↳ 相手は傷つけてしまっていると言えないといってる。

「どんな風に見てるかは分からない」

思考停止。 「気がついてない」

本島

・ 加害者としての責任をスタート
前夜まで知ってたのは、日本。

向かい側は...
(事件の経過) 福良

・ 加害者?
被害者?

・ 元島が大本営。

・ ガス — あまのほ。
の17年ほど。

加/被害は
簡単と言えない。

・ 南三陸の人

「原珠を愛する人として
いつかにならぬ
ありえない」

水俣

・ チョリは私にあって (おかげで) 責任。

・ 問わぬ人です

→ 大人数は傷つた。

月日が経つ中で忘れていく

木村さん 200年は生きられない

大いびびく、伝承していかぬか。

↳ 和用ではなく、公用で入る土)にたてほしい

大衆人口

1000

広島は

原爆

移す世界へ

遺構を壊せぬ。

福島は

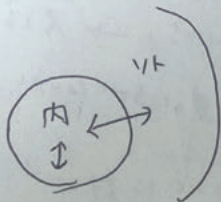
原子

?

人災、公害?

原子力災害?

単



◻ ネガティブを受け取らぬ日本

シンプルな考え

海外 vs 日本

(PK)

言語のせい
にしたって
落ちつかない

↳ ~~考える~~

耐えろ考えろ

複雑な考え

解答。
かたは、~~もう~~もう
すてつながら

どこが糸?

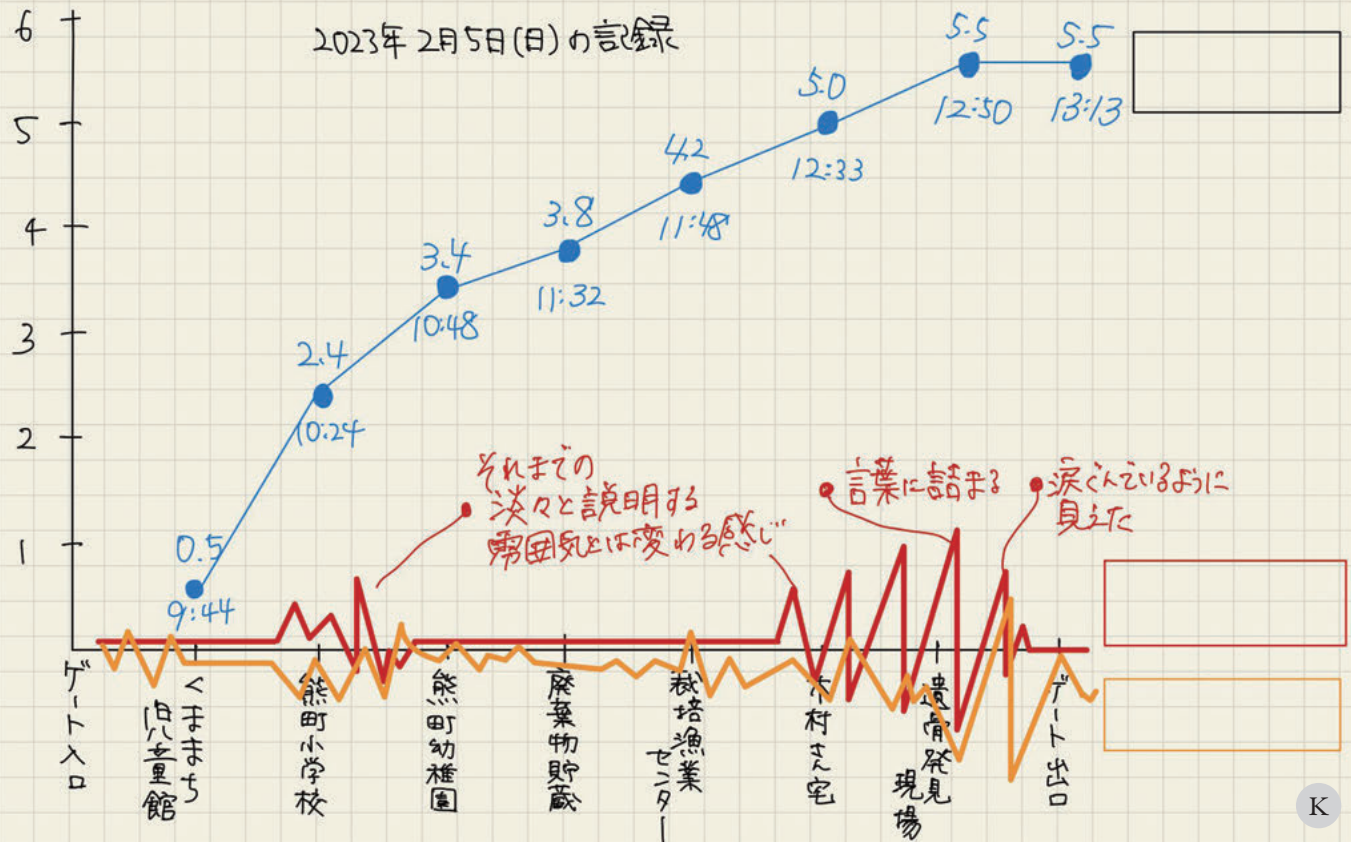
かかるといふ? どうする?

リターの絵

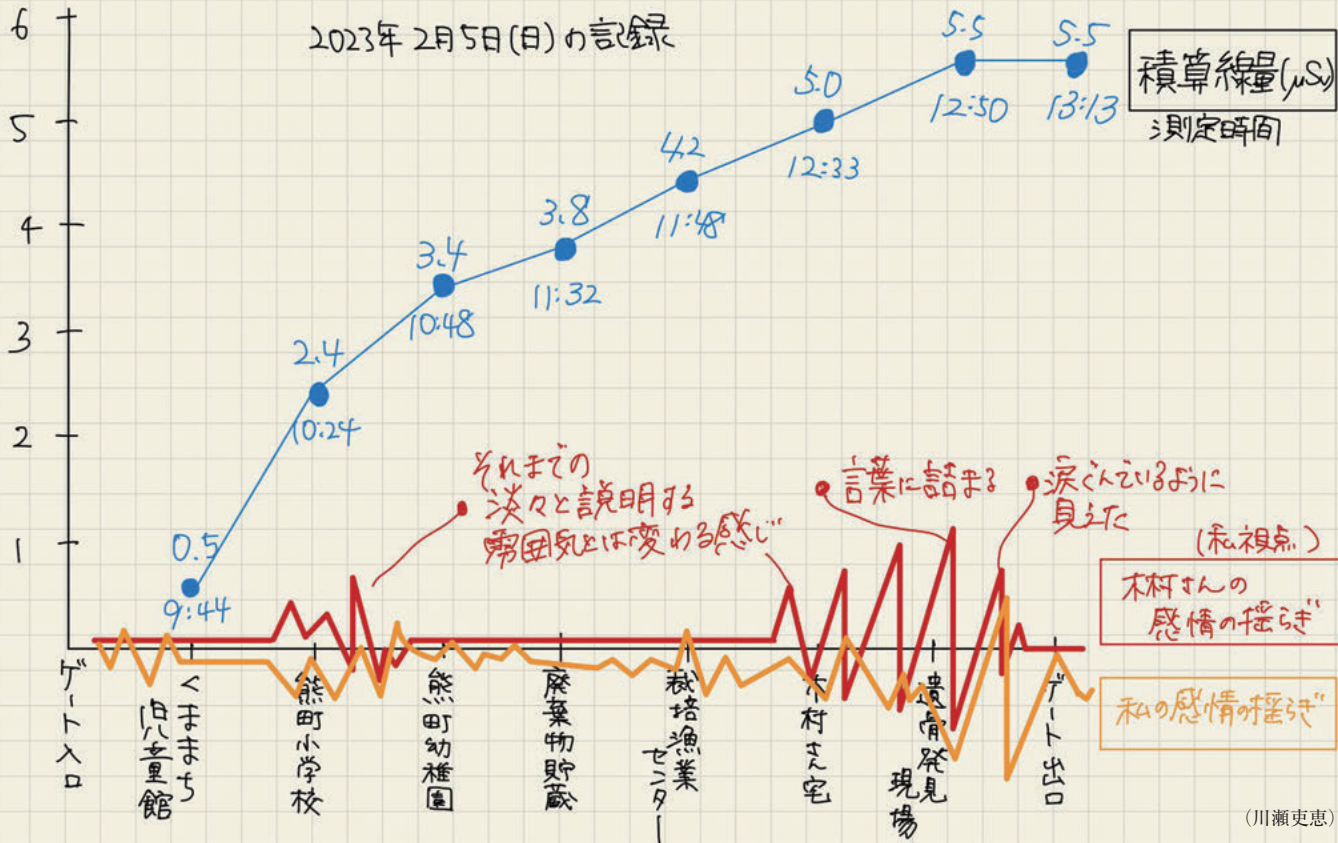
絵の具の下に
十千の写真

多様性

2023年2月5日(日)の記録



2023年2月5日(日)の記録



【感情の調査・分析中】

呼応する感情

あなたの声が震える瞬間、

あなたの言葉がつまる瞬間

あなたの顔が赤くなる瞬間、

あなたの目頭が熱くなる瞬間、

「あなたの感情」は揺らぎ、動き、心から飛び出ている。

「あなたの感情」は、「わたしの感情」をも揺らし始める。

それは、数値のように段階的ではなく、

時間のように単調でもない。

それは、誰かが、ましてや自分さえも、

コントロールできるものではない。

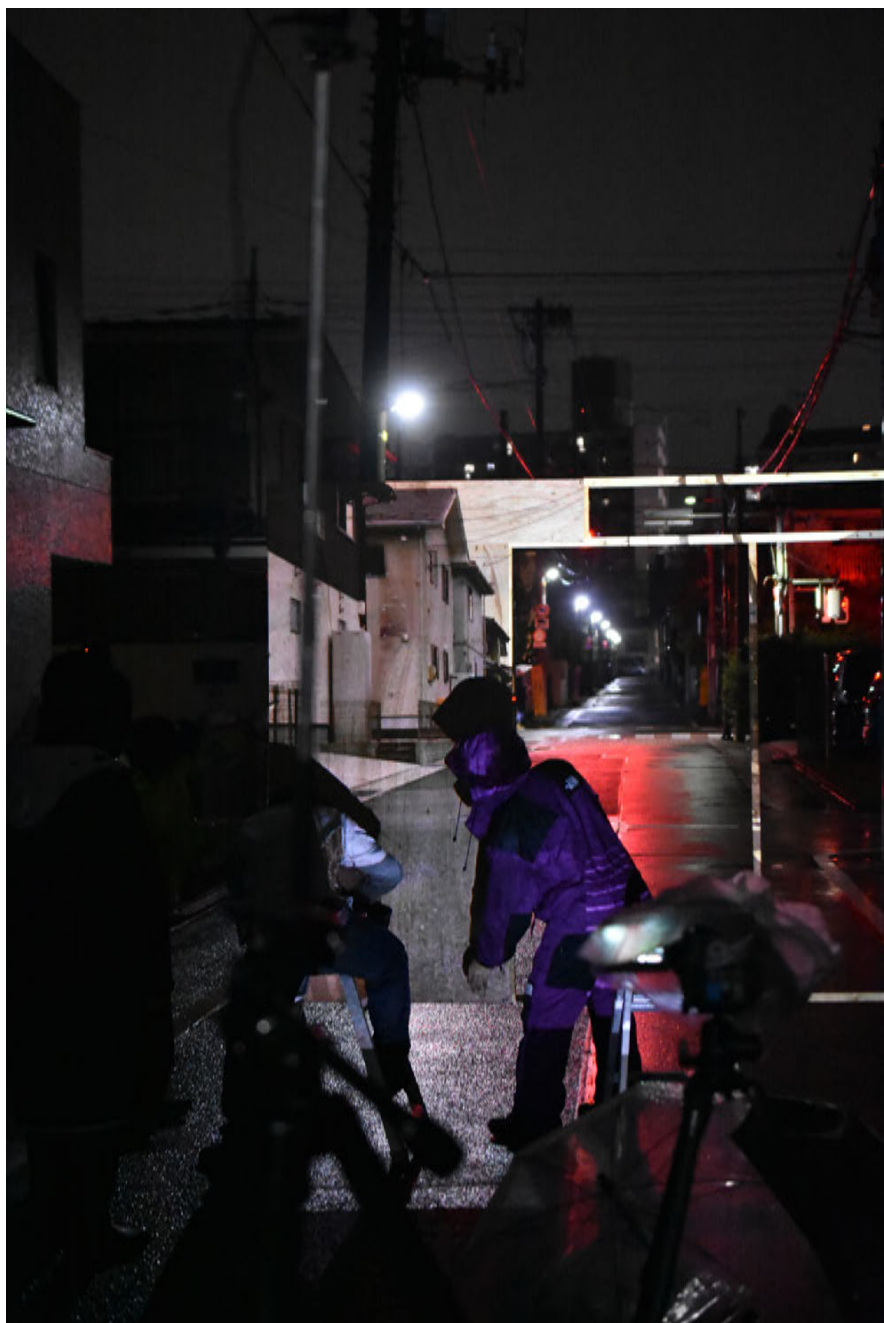
しかし、それは、不安定で、主観的で、一方的で、

根拠なきものであるのに、

「わたしの感情」が揺るがされるのは

「あなたの感情」によってなのだ。





2022年11月20日 19:55

(松田洋一)



2023年1月9日5:07



2022年12月24日 16 : 46

(松田洋一)





2022年11月20日 19:28

(松田洋一)



2023年1月9日5:07

ざるや

さんの前の道が「まだ舗装もされて無くて」と聞いて。

いちど稲城を離れて戻ってきたのが、父が亡くなった後だから一五年くらい前。

そのときに、渋滞解消のために鶴川街道が整備されて広い真っ直ぐな道になっていた。むかし住んでいた家の前の小さな道や小中学校に通った細い道が、

真っ直ぐに道を通したために切り刻まれてしまっていたのが「何とも」。

「何とも」何だと感じたのか？

ざるやさんに話しを聞きたいと思ったのは、

直接には去年ざるやさんの隣に「ざるやのとなり」という珈琲スタンドができて、

そのオーナーから「昔からある酒屋だから、

ざるやさんからお話し聞いても面白いね」と言われたから。

でも、遡ってみると、やはりたましらべで府中の九〇歳の農家のおばあさまから、

府中競馬場をつくるときに稲城の大丸の山を削って土をもってきたという話を聞いて。

子どもの頃から見なれていて何とも思っていなかった風景が、突如意味を変えた、というのかな。

それで、昔の話をもっと聞きたいと思った。

稲城は多摩ニュータウンの端っこだけれど、小さな頃から宅地開発のために山が削られていて、

それが当たり前の風景だった。

だから、大丸の山も削られてあるのに何の疑問もなかった、というか、

削られていることにすら気づいていなかった。

それが、人の手で、もう一〇〇年近く経っても植物も生えないくらい

乱暴に削られていたんだ、と気づいた驚き。

見えているのに見ていない。

作家の姜信子さんは「鍛えているから痛くない」と言った。

鍛えて、頑張って頑張って鈍感になってしまった私たち。

痛くても、痛いことすら気づかない。

そういうことなんだと思う。

見えているのに見ていない。

ざるやさんの前の道に話を戻すと、

そこは子どもの頃から駅やスーパーに行くときによく通っていた道。

ざるやのとなりからも硝子越しに見える。

なんかその眺めが良いんだな。

今回ざるやさんを訪ねてみて、そこが四つ辻だと初めて気がついた。

よく見てみると、Y字路にもう一本、さらに細い地味な道がついている。

ああ、ここにも見えているのに見ていないものがあったなあ。

信号もなにもない（よく事故が起きないね）昔から人が通った形を残す柔らかい四つ辻。

（片桐美智子）

●さるや訪問と…。 稲城長沼駅で待ち合わせ。

◆どうして片桐さんのご両親は稲城を選んだの？

◇父親が読売ランドの近くのコカコーラボトルーズに勤めていて、都合が良かったのかな。両親ともに田舎の人で、田んぼがあったり畑があったりして、懐かしかったのかな。

◆さるやのお店番をされていた2人の女性、ここは多摩川の近くって思っていないで面白かったな。外から見ると多摩川の近くって感じるけれど、住んでいる人はそうは思わないみたい。

◇かごや問題も聞いてきた。さるやとは別ににあったんだって。屋号で、「あめや」とか「そばや」という屋号があったんだって。昔のことを聞ける人がほとんどいなくなっているね。

◆なんだか穏やかで時間がゆっくりで、話していて楽しかったね、いい気持ちだったなあ。無理がない感じがするね。

◇うん、インドで刺繍をする人たちは、ずっと刺繍をしているんですね。おしゃべりをしながら。テレビがあるわけでなく、パスワードを探そうとか(笑)そういうことがないから、本当にずっと刺繍をしている。その時間の感覚が仕事にとでも表れている。我慢ではなく、楽しい。追われていない。それができる心の状態。

◇岩立フォークテキスタイルミュージアムで週に一度受付をしているんだけれど、そこにあるものを見ていると今の日本と時間の経ち方が違うな、と思う。日本は便利になったけど、逆にいるんなことができなくなっている。今でも刺繍を作っているところは一人ではなく、共同体でやっているんですね。それが一人でもやるようになり、今は「個人」になる。「作家」になると「作品」になる。岩立さんはそういうこと、ものを作ろう、表現しようという意識が嫌い。

◇タバっていうんですが、アフリカでは木の皮を叩いて繊維にして禪(ふんどし)を作ってたんです。みな、禪に自分のものだ、という模様を入れる。それは「表現」しようとしているわけではない。自分の禪だから。それが美しい。そこには「表現欲」みたいなものはないのよね。それが今、工芸品、骨董品としてヨーロッパでは高く売れる。今や芸術品のようなものになっている。

◆クバの布も本当に綺麗。
◆それに金銭的価値がついてしまうということはどうなんだろ？いいこと？

◇それは全然良くないと思う。売るために作ったりしちゃうと。

◇自分が墓に入るためのものをずっと作っているわけで。それを見たヨーロッパの人が美しいね、と言って価格をつけて取引されるようになった。それはちょっと違うよね。多分。

◇全く違う理由で作られていたものが、お金とか、商品価値のようなものに取り込まれていく。品質とか、意味が全然違ってくる。

●記憶とか風景とか

◆私は造園屋で、いつも風景が人格を作ってるって思っている。良い風景とか悪い風景というんじゃないやなくて。その人なりの。だから、お父さ

んとお母さんが東京の人じゃないから、稲城で暮らすことを選んだんじゃない？ということとはとても納得できるな。

◇私も森山さんくらいの時に稲城の風景が私を作った、なんて考えたこともない。

私は両親がもう亡くなっているの、自分のルーツについては考えますけれど。それって田舎そのものではなくて、お盆やお正月の帰省の途中で見た風景は思い出しますね。

◆そこに経験や関係性がくっついてきているよね。

◇小学生の頃、夏休みに新潟の母の実家に預けられていて、何もすることがなくて田んぼしかなくて、暇だなあ、と思っていたけれど、今思うと懐かしいよね。

◆昔とか色とか風の感じとか覚えてないですか？

◇田んぼなので水路あって、妹とタニシとかとって遊んでいた。子供だから田んぼにはあんまり行かず、家の近くにおばあちゃんの畑があつてきゅうりとか茄子とか、すごい勢いでできてた。そんなことを覚えてます。

◆私が子供の時に従姉妹と田んぼの脇の水路でオタマジャクシを、バケツが真っ黒になるくらい(笑)って、おばあちゃんの家に持って帰って、家のまえの野菜を洗った水路にジャーってこぼした。別にオタマジャクシが欲しかったわけでもないんだよね。どんどん獲れることが面白かった。で、その水路は田んぼにつながっていて、また、田んぼに戻っていった。

◆カエルもとってたな。

◆そういうのって他の人と代えられる記憶ではない。カエルとったよね、といったことは同世代の人と話せるけれど、取り替えてできる記憶ではないよね。

すぐくそれが自分のアイデンティティに関わっているな、という気がする。

◆だから、福島の高上げの話の時に、解決の仕方として高上げはどうなのよ？と思った。

◇でも、高上げは昔からあるですよ。万葉集に出てくる「あず」は、自然にできたもの。でも、武蔵野には大丸のような風景があって、子供の頃から見ているから、ああいうものだと思っていた。削られた、という意識もなかった。1930何年かに東京競馬場ができたから、そろそろ100年くらいですね。

◇山をうがっていくと、木が生えようがなく、どんどん侵食されていく。

◆片桐さんの話を聞いて、橋葉町でも山が削られてたから、あの土はどこに行ったの？って聞いたたら、防波堤に使ったんだと近所の人がいった。

◆防波堤作ったり高上げすると風景が変わってしまうね。

川沼の田んぼがバッファアになっていた。川が溢れた時に、田んぼの収穫が一年犠牲になると済んだんだよね。家は高台にあった。昔はここにあつたら浸われるぞ、というところには家は作らなかった。そういう知恵があつたんだよね。そういう知恵がなくなっていた。

◇去年の豊田さんの話の中でも、熊本の川も洪水が起きるのを前提に家が作られていた。洪水が起るたびに魚が採れたって。洪水を前提に生きていたんですね。それを防ごうとす

るときに被害が大きくなっちゃう。

◇宮城県の大丸、台風で水害が出た。堤防とか立てているけれど、次、台風が来てこれが倒れたら、もっと被害が大きくなる。

◆都幾川には信玄が作った霞堤がまだ残っているよ。洪水の時に水を逃すの。

◇お金儲けが先に来ているから。単に治水の問題でなくなってしまうのですね。昔の治水には知恵が詰まっている。

●美しさは偽ったりできないし、

◇場所は関係はないけれど、姜信子さんから韓国で99歳のことを白手(ベクス?)言うという話を聞いたことがあるんです。白い手、すなわち「働かない手」と捉えて、資本主義からなるべく身を離して生きる、という運動が起っているんですね。自分たちが持っているスペースで料理を作って実費で、分ける、賄いみたいな。

◇あまりにも資本主義が酷い。そこから身を離して生きないと、おかしくなっちゃう。一方で資本主義がひどくなればひどくなるほど、そう考えている人が増えている。私はそちらの側にいたいな、と思っている。

◆古民家を探していて、120年経って、なかばゴミ屋敷のようにもなっている、木の梁や板の襖はどれももしっかりしていて、修繕すれば使えるし、美しい楽しい。でも、現代の住宅はそうはいかないよね。

◇美しさは偽ったりできない。正義感とか、そういうものは偽ったり、うまく立ち回ることまではできるが、美しさは真正正銘のものだから偽ったりできない。美しいことに正義だと思っている。美しいものは信じます。

◇「気狂い部落周遊記」を見ても、戦後に負けたから、負けた日本を否定する、そこから再建していくという意識が働いているとすぐく思ってた。そのさきにも多摩センターの開発がある。気狂い部落のようなものはなくなってもいいんだという。

◆今、気狂い部落周遊記より、もっと醜悪になっているんじゃない？

◇気狂い部落ってというタイトルをつける時に、村の人から反対があつた。それは不名誉だから、というよりは、自分たちの住んでいる土地に対する愛着があつたからなんじゃないかな。愛着っていうのが開発によってみんな無くなった。愛がないっていうか。それも多摩の活動に関わってみて、多摩って土地に対する愛着っていうのが希薄だなって。なけなしの愛着があつたのに、ニュータウン開発で無くなってしまった。オオカミの護符の小倉さんが、山が削られることに対して痛いて思ってたって言った。土地に対して身体感覚を持つって、普通だったんじゃないかな。

◇古い因習的なものから解放されたかもしれないけれど、失ったものもあるということもみないかなとね。ここより先に行ったら、そんなものは無くなってしまってもいいじゃないですか。昔のことを知らないといこれからのことが考えられない。昔のことを知ることは大切なことですよ。